

傾聴ボランティア通信



会員の皆様、いかがお過ごしですか。
 長野県でもワクチン接種が進み、少しホッとしていらっしやるでしょうか。
 デルタ株による感染拡大、オリンピック・パラリンピックの開催、お盆帰省など心配なことはまだまだ続きますが、あと一息と信じて乗り越えましょう。

長野県傾聴ボランティア連絡協議会 2021年度総会 について

本年度の総会について、書面表決にご協力頂きありがとうございました。
 提出していただきました書面表決についての結果を下記の通り報告いたします。

<所属グループ・個人会員数： 26 賛否書提出グループ： 19 >

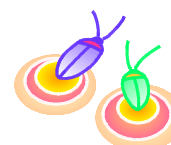
議案の表決

- | | |
|------|--------------------------|
| 1号議案 | その1 (2020年度全般事業報告) |
| | その2 (基礎講座運営報告 2021年度見通し) |
| 2号議案 | その1 (2020年度会計報告 監査報告) |
| | その2 (基礎講座会計報告) |
| 3号議案 | 2021年度事業計画 (案) |
| 4号議案 | 2021年度予算 (案) |
| 5号議案 | 役員改選案 |

すべての議案について、賛成していただきました。

コメント等

グループとしての活動は中止しているが、周囲の人々と傾聴的に関わる工夫を各自行っている



傾聴実践特集



21号に続き、傾聴実践特集の第二回目をお届けします。コロナ禍での生活は2年目となり、傾聴活動ができない日々が続ますが、見通しが立たないと諦めてしまわず、あの日の利用者さんの笑顔を思い出しましょう。投稿して下さった方々、ありがとうございます。



個人傾聴を体験して

傾聴ボランティア伊那 赤羽 茂一

Kさん九十五才、男性、長女の家同居、心臓疾患があり、筋力低下、年相応の認知症がある方のお宅へ訪問です。私にとって初めての、個人宅に伺って行う傾聴でした。コロナ禍の中での傾聴でしたので、まず相手の体調がよく、私の方も対策をとった上で行うことを互いに確認を致しました。実際の訪問日には、体温と体調を報告し、2メートル離れて声が聞き取れるか確かめてから、会話を始めました。自分がもしKさんだったら、どの様に話しかけられたら、話しやすくなれるか考え、挨拶をしている時にKさんの様子を見ながら自己紹介してみました。Kさんは職人でしたので、仕事の話になると、休業時代は、親方に厳しくこまれたことなど話していただきました。戦時中、戦後、物のない頃の話は私の親もよく話して聞いていたので、共感できる所がありました。物がなくて自分で作らねばいけなかった事、たまの行事や祭りが楽しみであった事など話していただきました。最近は娘さんも話に加わり、お父さんとの昔話や、亡くなったお母さんとの話を話していただきました。ある時、帰りの玄関先で「父が前より話をするようになった、楽しみにしています。」と仰っていたので、個人傾聴やっていてよかったと思いました。

長野県傾聴ボランティア連絡協議会
 代表 長谷川 昭 TEL FAX 0264-48-2133
 携帯 09043981187
 mail mr.kaeru77@ot.kiso.ne.jp
 ☎ 397-0201 木曾郡王滝村 4100-13



広報担当 弓削淑子
 TEL FAX 0266-74-1122
 mail yugetora@po30.lcv.ne.jp
 ☎ 391-0115 諏訪郡原村原山17217-2199



私たちの大切なあの傾聴の時間

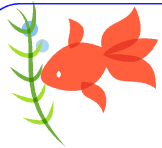
傾聴ボランティアやまぼうし 高山 智恵

会の結成後一年余りたった頃、一人のご婦人から、今迄と違った形の傾聴依頼がありました。

「高齢でこれから先、人に話ができなくなる前に話しておきたいことがある。それを録音して欲しい」という事でした。

趣味・生き甲斐などの後、大正6年に植民地時代の朝鮮京城(ソウル)に生まれてから、戦中・戦後、日本での娘時代から今に至る迄の事。

一番強く思う事は、戦争をして自分の国を栄えさせる事は間違っている。等々自立した老後を凜と過ごす先輩の心の中を話して頂いた大切な時間でした。



傾聴で心に残った事例

傾聴ボランティア伊那 春日 澄子

“約束の大切さ”

暑い夏の日でした。Aさん65才位。約束の時間は午後2時。その日は午前の会議が延びて約束の時時間ぎりぎりに終了。早速Aさん宅に向かったが運悪く信号に待たされて5分遅れに到着。

Aさん、「さっきから外で待っていたら暑くてくたくた。5分も遅れて来て。今日は疲れたから帰って……」と家の中に入ってしまふ。私、「ちょっと冷たい水飲んでお話ししようよ。」と呼びかけたが無言。仕方なく帰宅。次の約束もできず意気消沈。

その後、社協の方をお願いして、次回訪問を。前回のことは忘れたように楽しく過ごす。

“ゲートキーパー”

秋も終わりに近い少し肌寒い頃、男性Bさん70才位。いつものように訪問するとカーテンが閉めてあって部屋の空気も淀んでいる。私、「今日は暖かいのでカーテン開けようよ。」

Bさん、「ダメダメ 外は見たくない。」

少し不安を感じたが、そのままお話を。次回の約束もできて帰宅。

それから3日後に彼が亡くなったとの連絡。思い起こせば前々回訪問の折、いつも大切に飼っていた大きな金魚を川へ放した。アロエの鉢も頂いた方に返した。この時点でゲートキーパーとしては気付かなければ…と反省。気付きを大切に、細心の関心を…とは思いますが本当に難しい事。

終わりに「コミュニケーションあいうえお」を

あ あいさつ い いいね う うんうん え えがお お おれい

傾聴。まずはコミュニケーションをたいせつにしましょう。

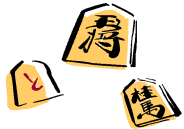
連絡協議会広報より **書籍紹介** (著者 大橋洋平 愛知県 JA 厚生連 海南病院 緩和ケア医)

『緩和ケア医が、ガンになって』 (双葉社)

『ガンを生きる緩和ケア医が答える命の質問58』 (双葉社)

緩和ケアには関われないとされる私たち傾聴ボランティアですが、緩和ケア医の心にしみる傾聴は参考になります。





こんな傾聴もありかな

傾聴ボランティア木曾 楯 絹子

施設訪問した時、中庭をジーンと見ているAさん、近づいて静かに「こんにちは」とお声がけをしたところ、振り向いてニッコリ。

名札をお見せしながら「隣町から来ましたTです。よろしくお願いします。」「なに、隣町から、ご苦労だなあ。」

「Aさんの一番楽しい事なんですかね。」とお聞きすると「オレは歌が大好きだけど、一人で歌うとるとバカと思われるでな。」と悲しい顔。

「今日は二人で歌いましょう。」とそれから『山は白銀朝日を浴びて…』と二番まで、『木曾のナー中乗りさん…』と三番まで、『吹けば飛ぶような将棋の駒に…』と二番まで、三曲をくり返しくり返し三十分くらい楽しそうに歌われました。

帰りの挨拶をすると「今日は本当に楽しかったよ、また来てくれな。」とお言葉を頂いて、傾聴をやって良かったな、こんな傾聴もありかなと幸せな一日でした。



87才一人暮らしの方に

傾聴ボランティア箕輪 加藤 昌子

月、10日ほどの在宅時、ボランティア二人が交代で訪問しています。

ときには15時半頃まで昼食の弁当をとられていず、食事を勧めながら、会話をしますが、なかなか会話が続き「忘れた」「知らない」を繰り返されて、話が続きません。

60才頃までコーラスをしていたので、歌詞カードも読めますし、音程も声もしっかり唄われます。音楽は好きなようです。

傾聴ボランティアとして箕輪町の介護支援サポーターの講座を受けていますので、傾聴だけでなく、つい見守りの的に支援することもあります。

傾聴活動とは違うというジレンマを感じながら訪問を続けています。

私たちのことを覚えていませんが、帰る時に姿が見えなくなる迄、窓を開けて見送ってくださるようになり嬉しいことです。



傾聴活動からの贈り物

傾聴ボランティア伊那 西川 久子

「傾聴ボランティア伊那」での私の活動はいつの間にか十年過ぎました。

この間、大勢の方と出逢いお話を聴かせて頂きましたが、認知症の方もそうでない方も、ご自分が活躍し頑張っていた頃のことは生き生きとした表情で話をされます。又、悩みや苦労話をされる時もあります。言わば、私にとっての傾聴活動の場は他人の貴重な人生そのものを聴かせて頂く貴重な場とも言えます。『傾聴モード』で聴くことに依って、私の体験だけでは到底知り得ない世界を知り、人には私の思いもよらない考え方、見方、生き方があるという驚きにも似た気付きの場を与えて貰っています。

戦争関連の様々な体験談、仕事の話、抱えている苦悩等々の話からは、学ぶことも多く、新しい知識を得ると同時に、私自身のこれからの生き方について改めて考える機会にもなっています。これは、「傾聴活動」から頂く私への最高の贈りものと感謝しております。

